



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年2月13日

上場会社名 新田ゼラチン株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4977 URL http://www.nitta-gelatin.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 尾形 浩一  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理本部長 (氏名) 長岡 令文 TEL 072-949-5381  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月13日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無: 無  
 四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	29,285	26.8	2,050	102.9	2,089	75.2	894	43.7
2022年3月期第3四半期	23,095	△0.1	1,010	△9.1	1,192	12.5	622	3.7

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 1,601百万円 (18.7%) 2022年3月期第3四半期 1,349百万円 (61.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	49.34	—
2022年3月期第3四半期	34.39	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	41,730	21,887	45.4
2022年3月期	37,410	20,562	48.3

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 18,926百万円 2022年3月期 18,082百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	7.00	—	7.00	14.00
2023年3月期	—	7.00	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	—	—	9.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	39,000	22.7	2,600	66.6	2,900	67.2	1,400	92.7	77.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	18,373,974株	2022年3月期	18,373,974株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	240,939株	2022年3月期	268,739株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	18,119,135株	2022年3月期3Q	18,092,966株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	4
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(追加情報) .....	9
(セグメント情報) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2022年4月1日～2022年12月31日)の世界経済活動に対する新型コロナウイルス感染症の影響は、各国で対策に差はあるものの、全般的には小さくなりつつあります。一方、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化に伴う資源やエネルギー価格の高騰など当社グループを取り巻く環境は厳しい状況で推移しました。

当社グループは2022年6月に、10年後のビジョンを「コラーゲンを通じて人々のQOL向上に貢献」することとし、その具体的な施策を「ゼラチンの汎用品から付加価値の高いコラーゲンペプチドへのシフトを進め、成長が見込める市場に経営資源を重点配分し、高収益企業に生まれ変わる」とする事業戦略を発表しました。

この事業戦略の下、フードソリューション、ヘルスサポート、スペシャリティーズの各領域にて、お客様の旺盛な需要に応えるべく製品の安定供給に努めると共に、適正価格への改定に取り組みました。ヘルスサポートにおいては、一般消費者向けコラーゲン健康食品のリブランディング並びに広告宣伝の強化により、拡販に努めました。また、2022年12月には、バイオメディカル製品の研究開発・生産機能並びに全事業部門の研究・開発機能を集約し、新事業につながる製品の創出を図るための新研究開発・製造棟「みらい館」を竣工しました。

以上の結果、各領域での売上伸長に加え、海外売上に対する為替影響により売上高は29,285百万円(前年同期比26.8%増加)となりました。営業利益は海外での売上伸長等により2,050百万円(前年同期比102.9%増加)、経常利益は2,089百万円(前年同期比75.2%増加)となり、その結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は894百万円(前年同期比43.7%増加)となりました。

当社グループは、コラーゲン事業の単一セグメントを適用しておりますが、販売区分別の概況は次のとおりです。

#### (フードソリューション)

フードソリューションにおいては、日本及び北米地域で販売が引き続き好調であったことにより全体の売上高は増加しました。

日本では、顧客のグミキャンディー販売が引き続き好調なことから、売上高が増加しました。また、新型コロナウイルス感染症に対する行動制限の解除により外食産業向けの需要が回復し、業務用スープ・調味料用途や業務用小分け製品の販売が増加しました。加えてコンビニエンスストア向け総菜用途への売上高が増加しました。

海外では、北米地域において食品用途の需要は堅調で売上高が増加しました。

その結果、フードソリューション全体の売上高は11,516百万円(前年同期比24.4%増加)となりました。

#### (ヘルスサポート)

ヘルスサポートにおいては、カプセル用ゼラチン及びコラーゲンペプチドの販売が伸長し、全体の売上高は増加しました。

日本では、インバウンド需要回復を見込んだ顧客の需要増に対応し、美容コラーゲンペプチド及びカプセル用ゼラチンの売上高が増加しました。また、一般消費者向けコラーゲン健康食品を通信販売している直販事業は、積極的な広告宣伝もあり、売上高が増加しました。

海外では、北米地域においてコラーゲンペプチドの販売が好調でしたが、アジア地域においては景気低迷、インフレ等の影響を受けた消費マインドの冷え込みにより、美容用コラーゲンペプチドの販売が減少しました。一方、北米、インドにおいてコロナ禍で健康促進や予防意識が高まり、カプセル用ゼラチンの売上高が増加しました。

その結果、ヘルスサポート全体の売上高は13,946百万円(前年同期比24.0%増加)となりました。

#### (スペシャリティーズ)

スペシャリティーズにおいては、飼料や肥料向け需要増と市況価格の上昇により副産物であるリン酸カルシウム等の売上高が引き続き増加し、全体の売上高は3,822百万円(前年同期比47.2%増加)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末比4,319百万円増加の41,730百万円となりました。主な要因は、現金及び預金が915百万円減少した一方、受取手形及び売掛金が1,531百万円、棚卸資産が2,629百万円、その他の流動資産が333百万円及び有形固定資産が629百万円それぞれ増加したことによるものです。

## (負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末比2,994百万円増加の19,842百万円となりました。主な要因は、その他の流動負債が368百万円減少した一方、支払手形及び買掛金が950百万円、短期借入金が1,077百万円、長期借入金（1年内返済予定を含む）が1,277百万円それぞれ増加したことによるものです。

## (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末比1,325百万円増加の21,887百万円となりました。主な要因は、利益剰余金が640百万円、為替換算調整勘定が302百万円及び非支配株主持分が481百万円それぞれ増加したことによるものです。

この結果、自己資本比率は45.4%（前連結会計年度末48.3%）となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の連結業績予想は、2022年11月14日に公表しました「2023年3月期 第2四半期（累計）連結業績予想値と実績値との差異、通期連結業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ」の連結業績予想から変更はありません。

なお、実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、当面は、日本基準で連結財務諸表を作成する方針であります。

なお、今後につきましては、当社経営方針及び国内外の諸情勢を考慮の上、国内同業他社の I F R S（国際財務報告基準）の適用動向等も踏まえ、I F R S（国際財務報告基準）の適用について検討を進めていく方針であります。

## 3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,046	2,130
受取手形及び売掛金	7,389	8,920
商品及び製品	5,955	6,796
仕掛品	1,396	1,228
原材料及び貯蔵品	3,104	5,061
その他	588	922
貸倒引当金	△16	△8
流動資産合計	21,465	25,052
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,409	4,796
機械装置及び運搬具（純額）	2,474	2,711
その他（純額）	4,532	3,537
有形固定資産合計	10,416	11,045
無形固定資産		
のれん	232	209
その他	275	249
無形固定資産合計	507	459
投資その他の資産		
投資有価証券	3,363	3,464
その他	1,775	1,836
貸倒引当金	△117	△127
投資その他の資産合計	5,021	5,173
固定資産合計	15,945	16,678
資産合計	37,410	41,730

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,745	3,695
短期借入金	2,271	3,349
1年内返済予定の長期借入金	1,909	2,177
未払法人税等	171	282
賞与引当金	224	174
その他	3,399	3,031
流動負債合計	10,721	12,710
固定負債		
長期借入金	3,573	4,583
退職給付に係る負債	1,560	1,627
その他	992	921
固定負債合計	6,126	7,132
負債合計	16,848	19,842
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,144	3,144
資本剰余金	2,965	2,964
利益剰余金	10,181	10,822
自己株式	△179	△160
株主資本合計	16,112	16,770
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,231	1,231
繰延ヘッジ損益	46	△5
為替換算調整勘定	540	842
退職給付に係る調整累計額	151	88
その他の包括利益累計額合計	1,969	2,156
非支配株主持分	2,479	2,960
純資産合計	20,562	21,887
負債純資産合計	37,410	41,730



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	23,095	29,285
売上原価	18,113	22,267
売上総利益	4,981	7,018
販売費及び一般管理費	3,970	4,967
営業利益	1,010	2,050
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	45	59
受取賃貸料	43	43
為替差益	143	60
その他	40	50
営業外収益合計	274	217
営業外費用		
支払利息	75	137
持分法による投資損失	10	33
その他	6	8
営業外費用合計	92	178
経常利益	1,192	2,089
特別利益		
固定資産売却益	0	0
収用補償金	—	46
特別利益合計	0	46
特別損失		
固定資産売却損	0	—
固定資産除却損	52	5
移転関連費用	—	55
減損損失	—	31
特別損失合計	52	92
税金等調整前四半期純利益	1,140	2,043
法人税等	322	605
四半期純利益	817	1,437
非支配株主に帰属する四半期純利益	195	543
親会社株主に帰属する四半期純利益	622	894

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	817	1,437
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	209	0
繰延ヘッジ損益	△6	△53
為替換算調整勘定	219	164
退職給付に係る調整額	33	△74
持分法適用会社に対する持分相当額	75	126
その他の包括利益合計	531	164
四半期包括利益	1,349	1,601
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,102	1,080
非支配株主に係る四半期包括利益	247	521

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年7月21日開催の取締役会決議に基づき、譲渡制限付株式報酬として2022年8月5日を期日とする自己株式27,800株の処分を行いました。この処分により、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金が1百万円、自己株式が18百万円それぞれ減少し、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が2,964百万円、自己株式が160百万円となっております。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年12月31日)

当社グループは、コラーゲン事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年12月31日)

当社グループは、コラーゲン事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。